

② 財務・会計

【総評】

令和7年度の本試験は、前年度までの設問数と同じ25問であった。前年度は5肢択一の問題が1問あったが、今年度はすべて4肢択一の問題となっている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が13問（前年度15問）、財務分野（ファイナンス）が12問（前年度10問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、前年度に引き続き、今年度も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、定番の論点の出題が少なく、全体的な難易度は前年度に続きやや高いレベルにあったと思われる。したがって、今年度はこの科目で60点を確保することが出来なかった受験生も多かったと思われる。

出題パターンを見ると、計算を必要とする問題は11問（前年度10問）であり、前年度に続き例年よりやや少なかった。このうち、比較的計算しやすい問題で得点を積み重ねられたかが重要となる。特に第7問（投資有価証券売却益）、第11問（原価差異）、第16問（加重平均資本コスト）、第17問（正味現在価値）は正解をして欲しい問題である。

一方、計算を必要としない問題も例年並みの14問（前年度15問）であり、これらの問題については、得点しやすい問題とそうでない問題とをしっかりと区別して、得点できる問題について、いかに確実に解答できたかが重要となる。特に、第2問（計算書類等）、第5問（固定資産）、第19問（投資評価基準）、第21問（フリー・キャッシュフローの計算）は正解をして欲しい問題である。

以上